

# 食品市場新聞

発行所

(有)食品市場新聞社

〒652-0844

神戸市兵庫区中之島1丁目1-4

電話(078)681-1046番

FAX(078)681-3824番

http://www.sssnews.co.jp

購読料 (1ヵ月)4000円

倉敷青果荷受組合

## 岡山県内の調達を強化

### 処理能力3割アップ カット野菜工場増設

岡山県の民営青果市場倉敷青果荷受組合(富本尚作理事長)は、カット野菜工場を増設した。近年、同組合では岡山県内からの加工用野菜の調達を強化しており、既存施設だけでは手狭になったためだ。従来よりも処理能力を3割高めて、増大するカット野菜の需要に対応していく。

増設したカット野菜工場は、同市場内に総事業費3億8000万円を整備。17年度の農水省「強い農業づくり交付金」から補助を受けた。鉄骨2階建ての構造で、延床面積は13325平方メートル。野菜のカット加工場や包装室、検査室などを配置した。来月から本格的に稼働する予定。新工場の年間処理能力は1920トンのぼる。



このほど増設したカット野菜工場

増設に踏み切った背景にあるのは、同組合が取り組んでいる岡山県内からの加工用野菜の調達強化だ。15年には県内生産者と協議会を発足し、栽培技術の共有化、機械化による加工用野菜の栽培面積拡大に着手。それに加えて、昨年2月には低温集出荷貯蔵施設を整備し、県内産寒玉系キャベツを中心に保管する体制を構築した。

さらに同組合でも農業

生産法人・クラカアグリ(株)を設立し、岡山県内で加工用野菜の栽培に自ら

乗り出している。今年2月時点の栽培面積は8畝となり、来年には15畝まで拡大する計画だ。単に栽培を手掛けるだけでなく、研修・視察の受け入れや栽培支援なども行い、加工用野菜の「モデル農園」のような役割も果たしているという。

単身世帯の増加や女性の社会進出、高齢化により、カット野菜の需要はますます高まると予想されている。その一方、ドライバー不足で輸送運賃が上昇しており、富本理事長は「岡山県内からの調達比率を高めて流通コストを削減しつつ、増大するカット野菜需要に対応したい」と話している。